
虎王の花

クロア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虎王の花

【Nコード】

N2922H

【作者名】

クロア

【あらすじ】

ラグナロクオンラインの世界における、エドガとヤファの短編です。妄想120%でお楽しみ下さい。

今からちよつと昔の、どこか違う世界の物語。

+++++

「これこれ、いいかげんにしないか。」

夜の森に、獣の声が響く。

その声に怒りはなく、どこか優しそうだ。

「やーだあ。ヤファはここがすきなのー。ふわふわだいすきなのー。」

大きな虎の頭に乗った少女の声がだだをこねる。

10歳くらいだろうか、あどけない顔に狐の帽子。

ふわふわと金色の尻尾がゆれる。

「降りておいで。月夜花。（ヤファー）」

そう言うとき大きな虎は頭の上の少女を爪を立てない様に掴み、座り直してから、静かに膝の上に置いた。

「大きくなったものだな。」

虎の手が少女の頭を撫でる。

「わあい、ぷにぷにするー。」

「ふふ……。本当に大きくなった。」

大きな虎は、少女との出会いを静かに思い出していた。

暗い洞窟の中、幼子の声がこだまする。

その耳障りに高い音に、洞窟の主は不愉快そうに目を覚ました。

寝起きの為、重そうな足取りで声の方へ歩いていく。

金色の目がゆらりゆらりと赤ん坊の側へ近づいていく。

彼の名はエドガ。

このフェイヨンの森を統べる獣王だ。

その王の住む洞窟の入り口に、幼子が白い布に包まれて置かれていた。

ウルフ共に見つからなかった事が奇跡だろうか。

いや、ここは王の住処。大抵の動物は憶して近づかない事がこの森で生きる鉄則だろう。

「さて、どうしたものか……。」

エドガは深いため息をついた。

「動物達でさえ産み落とした子は育てられるというのに。人という生き物はそれさえも出来なくなったのか・・・？」

赤ん坊の声が森に洞窟に響き続ける。

「やれやれ、・・・可哀想だが仕方あるまい。」

そういうとエドガは体を前のめり、大口を開け、鋭い牙を赤ん坊に…

『ガキン！！ッ』

空を噛んだ。

「・・・む？」

どうも前のめりになりすぎたらしい。
赤ん坊はエドガの顎の下にいた。
自然と、顎髭が赤ん坊の顔をなでる。

「キャッ キャハハハハ」

先ほどまで泣いていた赤ん坊が笑い出した。
突然のことに驚き、エドガは体制を立て直す。

「キャッキャッキャッ」

とほどエドガの毛が気に入ったのか、赤ん坊は笑い続けている。

「・・・楽しいのか？」

フツ笑うと、エドガは優しく赤ん坊を抱き上げた。
エドガは赤ん坊を見つめる。赤ん坊と目があう。
獣の瞳と、小さく丸い目が見つめ合う。

「・・・生きたいか？ 幼子よ。」

ピクピク動く髭に興味が沸いたのか、それとも問いに答えたのか。
赤ん坊は小さく幼い手をエドガに伸ばした。

「しかと受け取った。今日からおまえは獣王エドガの子だ。」

年月が過ぎ、幼子は成長していった。

モンスターの血肉を喰らい、エドガの妖気受け続け、その成長は遅くなった。

九尾狐の皮を着衣し従えて、大きな鈴を持ち、人をも殺せる様になった。

いつしか、幼子だった少女はフエイヨンダンジョンを統べるBOSS
Sモンスターとなった。

「・・・本当に、大きくなったものだ。」

老いた虎は膝の上の少女優しく撫でる。

「えへへゝ・・・w」

楽しそうな少女。

「ヤファは、おおきくなったけどエドガとずっといっしょ。ススキ（狐の名前）とコーン（狐の名前）とソヒーとムナツクとスケルトンとー・・・あとー・・・えっと、みんなだいすき！」

そう、照れたように笑った。

「ふふ・・・」

笑う合う二匹の声が、洞窟に響いた。

――――

この少女が成長し、人と出合い変わっていくのは、
また別のお話…。

+++++

（後書き）

初めて小説というものを書きました。下手で、すみません・・・。
+++++ 読んで頂きありがとうございます。心からの感謝をア
ナタに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2922h/>

虎王の花

2010年10月28日08時28分発行